

高校生の地震および地震研究に関する認識 (速報) High school students' recognition on earthquake and earthquake research(prompt report)

川村 教一^{1*}, 内記 昭彦², 相原 延光³
Norihiro Kawamura^{1*}, Akihiko Naiki², Nobumitsu Aihara³

¹ 秋田大学, ² 東京都立三田高等学校, ³ 神奈川県立新羽高等学校

¹Akita Univ., ²Mita High School, ³Nippa High School

1. はじめに

平成 24 年度から改訂された高校学習指導要領による理科の授業が始まる。高校での地震教育を充実させるとき、まず現教育課程で学んだ高校生の地震・津波に関する認識の実態を明らかにすることが、理科における指導改善のために極めて重要であると考えられる。高校生を対象とした地震・津波についての意識調査報告として、北海道釧路地方で実施した例がある(釧路地方気象台, 2004)。この調査では、地震・津波に関する知識獲得の意欲を持った高校生が多いことを明らかにした。しかし、この調査は一地方を対象としたもので、また調査項目は地震や津波の科学的な認識については含めていない。

そこで川村ほか(2010)では、2010年チリ地震津波を例として、高校生対象のアンケート調査を全国規模で実施し、遠地津波や波高の変化、海岸地形による影響、津波防災に関する基礎知識などの理解、遠地津波に対する警戒は地学履修者が未履修者と比べ高いとは言えないことを明らかにした。大半の生徒は津波について中学校までに学ぶべきだ、また高校で学ぶとしたら津波防災対策が重要だと考えていることも判明した。本研究では、全国の高校生の地震・津波に関する基礎知識・理解および地震・津波学習、地震・津波研究やそれに関する科学コミュニケーションに対する意識についての実態調査を、東北地方太平洋沖地震・津波を例として行っている。大会会場では、その集計結果の一部を紹介する。

2. 調査方法

(1) 調査対象と実施方法

調査では、北海道、東北、関東、東海、近畿、四国、九州の各ブロックにつき1~20校の全日制・定時制高校計63校から協力を得ることができた。調査は2011年4月中旬以降現在も実施中である。実施校の教員を通じて生徒に調査票を配布・回収している。

(2) 質問項目

アンケート調査では、地震・津波に関する基礎知識や理解の実態、地震・津波の学習の必要性、地震研究に関する意識など次のa~gの項目について質問を用意した。

a 回答者情報(居住都道府県名, 学年, 履修科目, 地震・防災の学習歴), b 地震に関する知識の情報源, c 地震発生や津波発生・伝播・遡上に関する理解, d 地盤の液状化現象の理解, e 地震・地震災害の学習や学習項目に対する意識, f 研究者による解説に対する評価, g 地震・津波研究に対する意識

キーワード: 地震, 近地津波, 概念, 高校生, アンケート調査, 東北地方太平洋沖地震